

令和8年度 スッキーニ 技術情報 No. 2

大船渡農業改良普及センター
 電話：0192-27-9918
 FAX：0192-27-9936

- ① 奇形果や傷果予防のため、わき芽かきを行いましょう。
- ② 生育段階に合った草勢管理を心掛けましょう。
- ③ 梅雨時期に備えて、定期的な病害虫防除を実施しましょう。

1 今後の栽培管理

(1) わき芽かき

定植後、1ヵ月程度で子葉の付け根からわき芽が発生し、放置すると奇形果が増えたり果実を傷つけたりするので、**10cm程度になったら摘除**します。一度わき芽かきをしたら、その後再び発生するわき芽は、親づるが折損した際の対策として放置します。

わき芽が発生しない場合は草勢が弱いと考えられるので追肥します。



図1 わき芽かきの仕方

(2) 摘花

低温期は雄花より雌花が先に開花するため、初期に着生する果実は授粉できず奇形果（流れ果、先細り等）になりやすい。

3番果までは開花前に摘花して草勢を維持するとともに、根をしっかり張らせて後半の収量を確保しましょう。

(3) 追肥

定植30日後頃から開始し、**2週間おきに窒素成分で3kg/10a**を目安に施用します。（野菜追肥 S535 の場合、20kg/10a）

花が小さい、果実の尻太りなどは草勢低下のサインです。草勢低下が進んで蕾の曲がりが発生する前に追肥をしましょう。

(4) 人工交配、ホルモン処理

ズッキーニは虫媒・風媒による自然交配が基本ですが、**9℃以下や25℃以上では不稔になる***ことが多くなります。その場合は、**人工交配やホルモン処理を行い、確実に受粉**させましょう。

(*花粉の生産量減少や、蜂が飛ばなくなるため)

ア 人工交配

当日開花した雄花の花弁を除去し、雌花の柱頭をなぞるように花粉を付着させます。作業は早朝に行います。1つの雄花で3花程度受粉可能です。

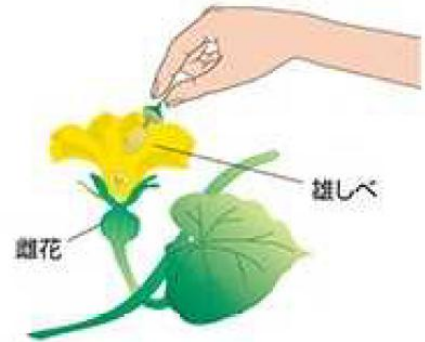


図2 人工交配

(茨城県ズッキーニ栽培マニュアルより引用)

イ ホルモン処理

トマトトーンを開花当日（早朝）に散布します。使用基準は以下のとおりです。食紅を混ぜることで二重散布を防止できます。

	希釈倍数	使用時期	使用回数	使用方法	使用目的
トマトトーン	50倍	開花当日	花に1回	散布	着果促進

(令和8年5月22日現在の登録情報です。)

(5) 摘葉

採光や通風改善を図るため、古くなり黄色くなった葉や果実を覆っている葉を摘葉します。

葉柄が水平～下向きになっている葉の葉柄部を長く残し、葉のみ摘除することで、株の倒伏や腐敗防止になります。

葉柄が上向きに伸びた葉は、雨水が入りやすく、病害発生の原因となるため、摘葉は控えます。



図3 摘葉する葉
(矢印部分で摘除)



図4 摘葉の仕方

2 今後注意すべき病害虫

(1) アブラムシ類

若葉の裏側、蕾、花に寄生し、吸汁加害するほか、**ウイルス病を媒介**します。ウイルス病に罹ると、生長点付近の若葉が黄色と緑のモザイク症状を呈します。

防除暦を参考にして、**生育初期から防除**を実施しましょう。また、**ウイルス病の罹病株は、直ちに抜き取ってほ場外で処分**し、他株への感染拡大を防ぎましょう。



図5 葉裏に寄生したアブラムシ



図6 ウイルス病の罹病株

(2) ウリハムシ

越冬成虫が春にウリ科野菜周囲の地中に産卵し、幼虫は根を、成虫は自分の体を中心にして円を描くように葉を食害します。

昨年発生が多かったほ場では、今年も注意が必要です。



図7 ウリハムシの成虫



図8 ウリハムシによる葉への食害

(3) 軟腐細菌病（腐敗）

主茎や果実が軟化腐敗し、腐敗した部分に白い菌泥が付着して悪臭を放ちます。

病原細菌は、**土壌中に存在し、高温多湿条件で増殖**します。雨によってほ場に広がり、傷口や害虫の食害痕から植物体に侵入し、被害が発生します。

梅雨前の定期的な防除の徹底と圃場排水・草勢維持に努めましょう。また、罹病株は速やかに抜き取り、ほ場外へ持ち出し処分しましょう。



図9 軟腐細菌病により腐敗した罹病株

(4) うどんこ病

最初は下葉に白い粉をまぶしたようなカビが発生し、のちに上位葉や茎にもみられるようになります。

高温乾燥や草勢低下によって発生しやすいので、草勢の維持に努めましょう。



図10 うどんこ病の病斑

★いわてアグリベンチャーネットメールサービス会員募集中

農作物技術情報や農村地域の情報を幅広く提供する岩手県公式サイト「いわてアグリベンチャーネット」のメール会員を募集します。

登録方法は以下のホームページをご覧ください。

URL: <https://www.pref.iwate.jp/agri/i-agri/maillinglist.html>

★4月15日～6月15日は春の農作業安全月間

農業機械の基本操作を守り、無理のないスケジュールで作業を行いましょう。

令和8年度岩手県農作業安全スローガン

「『これくらい…』少しの油断が 事故のもと 初心忘れず 安全作業」

★6月1日～8月31日は農薬危害防止運動実施中

使用前のラベル確認、使用後の履歴記帳など、適正使用を徹底しましょう！

★農作業中の熱中症を予防しましょう！

夏に向けて、農作業中に熱中症になる人が増えてきます。

4つのポイントを意識して、適切に予防しましょう。

- ①暑さを避ける
- ②こまめな球形と水分補給
- ③単独作業は避ける
- ④熱中症対策アイテムの活用